

2016年 **1**月 災害版No.66

広報ふたは、



田J の皆さまへ

みが厳しい季節になりました。 を挙行いたします。 玉県加須市との友好都市盟約締結式 11月3日には、町表彰式並びに埼 々が赤く色づき、朝夕の冷え込

難所とともに役場機能を設置いたし パーアリーナを経て、4月1日から 儀なくされ、 事故により、双葉町は全町避難を余 お世話になりました。 面にわたり支援をしていただき大変 ました。加須市の皆さまには物心両 埼玉県加須市にある旧騎西高校に避 本大震災と福島第一原子力発電所の 平成23年3月11日に発生した東日 川俣町、さいたまスー

が行われています。現在もなお約5 祭などを通して市民の皆さまと交流 ちが学び、騎西藤まつりや市民平和 市の幼稚園、小、中学校に子どもた 所を置かせていただいており、 閉鎖した後も騎西総合支所に埼玉支 継続的な支援をいただいております。 00人が加須市で避難生活を送る中、 市に移し、避難所(旧騎西高校)を 平成25年6月に役場機能をいわき 約2年3カ月の間、役場機能を加 加須

> 市議会議員の皆さまにもご出席いた締結式には大橋良一加須市長はじめ だきます。 のとしていきたいと考えます。盟約

助金、 ださいますようお願いいたします。 だき、ご意見やご提言をお聞かせく 二次)の検討状況や生活サポート補 町からは、復興まちづくり計画 白河市、いわき市で開催いたします。 ますが、お近くの会場にお越しいた ております。御足労をおかけいたし 月は栃木県宇都宮市、会津若松市、 政懇談会をスタートさせました。 10月14日から県内外14カ所での 町共同墓地等について説明し

り発生する移動経費や就業に向けて 象になります。 生活に係るタクシー代等の経費が対 県内産品の購入費、 の職業訓練、資格取得のための受講 皆さまの今後10年間の生活再建を少 始まっております。この制度は町民の 事業を開始し、10月3日より受付が く申請手続きを行ってください。 地で開催しておりますので、 る説明会や個別相談会等も避難先各 しでも支援するもので、避難生活によ 金いわゆる「生活サポート補助金」 中間貯蔵施設整備等影響緩和補助 風評被害緩和対策としての福島 大熊町との合同によ 高齢者等の日常 お忘れな

ますようお願いいたします。 体調管理にはくれぐれもご留意され 風が冷たくなってきましたので、

ります。このような加須市とのご縁 葉町の歴史に深く刻まれることであ 須市に置き、業務を行ったことは双

ご厚意に対する感謝の念を引き継ぐ を大切に今後も加須市民の皆さまの

輪を広げ、

友好の絆を一層強固なも

双葉町長

伊澤

加須市との交流の

双葉町教育委員を任命

が任命されました。 双葉町教育委員会委員として2名の方



洋尚さん (新山) 任期は平成28年10月7日から平成32年 10月6日までの4年間となります。

春美さん (下条)

任期は平成28年10月28日から平成32年 10月27日までの4年間となります。

委員
副委員
委
委
委
委員の任

の任期は、平成28年10月1日 から平成30年9月30日までです。

委員長	<u> </u>	松木	秀男	(羽鳥)
副委員長	Ę.	玉野	憲一	(郡山)
委員	į	岸	重夫	(新山)
委員	į	木幡	敏郎	(羽鳥)
委員	į	中島	恒徳	(郡山)

双葉町文化財調 で委嘱

を行いました。 文化財調査委員会委員の委嘱状交付式 文化財調査委員は、双葉町文化財保 教育委員会では、 10月3日に双葉

関して必要な調査研究を行います。 護条例に規定する文化財の保存などに

双葉町消防委員会が答申



9月30日、町から消防委員会に諮問をしていた 消防団の組織の諸課題における7つの項目に対し、 答申がまとまり、いわき事務所において岡田雄一会 長、宮本孝男職務代理者が伊澤史朗町長に消防団の 現状と今後の活動の在り方について答申書を手渡し ました。

伊澤町長は「避難により委員の方々が集まって議 論することも大変な中、4回にわたり会議を開催し、 ご審議をいただきましてありがとうございました。 今後の消防団の活動に活かしていきます」とお礼の ことばを述べました。

行政区長会研修会

~津波被災地を視察~

7月26日、27日、行政区長会研修会を開催し、 津波被害の大きかった宮城県南三陸町を視察しました。

現地ではガイドサークル・語り部の方のガイドによ り視察し、震災直後の様子や復興に向けての取り組み など、真に迫る話を聞くことができました。

現在の南三陸町は、盛土工事が大規模に行われてお り、復興への道のりは長いものと感じましたが、原発 事故で穏やかな豊穣の地を追われた私たちと、生活再 建や自立など、共有できる課題は大いにあるものと思 い、意義ある研修会となりました。

双葉町行政区長会長 石田 翼



津波被災で崩壊した、防災センター・ 盛土嵩上げ工事中の前

生活物資支援事業のお知らせ

毎年、皆さまからご好評いただいております 生活物資の支援につきまして、今年も避難世帯 ごとに「ゆうパック」にて12月中の配送を予 定しております。

お届け先は、町に届出のある避難先にしてい るところですが、例年、「保管期限満了」や 「あて所なし」で多くの配送物が戻ってきてお ります。皆さまに確実にお受け取りいただくた めにも、届出避難先の変更の手続き、また不在 通知が投函されておりましたら早目にお受け取 りをお願いいたします。

なお、生活物資のお受け取りをご辞退される 場合は、11月18日(金)までご連絡ください。

【問い合わせ先】

産業課 商工労政係 ☎ 0246-84-5214

生活サポート補助金

臨時窓口開設のお知らせ

9月下旬にお送りしました「生活サポート補助金交付 申請書」について相談できる臨時窓口を開設します。 提出書類の書き方や申請できる内容などを対面で詳 しく相談できますのでぜひご利用ください。

場所	期間
郡山支所	11月14日(月)~11月18日(金)
埼玉支所	11月28日(月)~12月 2日(金)

なお、いわき事務所においても常時相談を受け付け ております。時間は各窓口いずれも8時30分から 17時までです。

(土・日・祝日、12月29日~1月3日を除く)

双葉町生活サポート補助金コールセンターも ご利用できます

☎ 0120-280-707

平成27年度の一般会計の決算額は、歳入総額82億5,437万7千円(前年度比82.9%減)、歳出総額77億 5,700万2千円(前年度比83.7%減)となりました。

歳入から歳出を差し引いた形式収支は4億9,737万5千円となり、翌年度(平成28年度)に繰り越すべき財 源を差し引いた実質収支は4億1,797万3千円となりました。

歳入 82億5,437万7千円(前年度比82.9%減)

【歳入決算の内訳】 (単位:千円・%)

区分	平成27年	:度	平成26年度		増減	
区分	決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	決算額	増減率
自 主 財 源	2,812,879	34.1	2,765,231	5.7	47,648	1.7
町税	1,084,030	13.1	1,340,235	2.8	△256,205	△19.1
分担金及び負担金	145		1	_	144	14400.0
使用料及び手数料	4,247	0.1	4,657	_	△410	△8.8
財 産 収 入	36,883	0.4	3,881	_	33,002	850.3
寄 附 金	21,445	0.3	21,346	_	99	0.5
※1 繰 入 金	996,758	12.1	880,797	1.8	115,961	13.2
繰越金	629,850	7.6	458,421	1.0	171,429	37.4
諸 収 入	39,521	0.5	55,893	0.1	△16,372	△29.3
依 存 財 源	5,441,498	65.9	45,478,901	94.3	△40,037,403	△88.0
地 方 譲 与 税	45,549	0.6	43,630	0.1	1,919	4.4
利 子 割 交 付 金	499	1	972	_	△473	△48.7
配当割交付金	1,200	1	1,987	_	△787	△39.6
株式譲渡所得割交付金	952	_	976	_	△24	\triangle 2.5
地方消費税交付金	120,306	1.5	72,207	0.2	48,099	66.6
自動車取得税交付金	8,302	0.1	5,874	_	2,428	41.3
地方特例交付金	831	1	286	_	545	190.6
※2 地 方 交 付 税	1,465,324	17.7	1,604,665	3.3	△139,341	△8.7
交通安全対策特別交付金	500	_	0	_	500	皆増
※3国庫支出金	808,094	9.8	41,075,620	85.1	△40,267,526	△98.0
※4 県 支 出 金	2,989,941	36.2	2,387,984	5.0	601,957	25.2
町賃	0	_	284,700	0.6	△284,700	皆減
歳 入 合 計	8,254,377	100.0	48,244,132	100.0	△39,989,755	△82.9

※1各種基金等から繰り入れるお金 ※2一定水準の行政サービスを提供するために国から交付されるお金(東日本大震災復興 特別交付税を含む) ※3特定の目的のために国から交付されるお金 ※4特定の目的のために県から交付されるお金

歳出 77億5,700万2千円(前年度比83.7%減)

【目的別決算の内訳】 (単位:千円・%)

	区分		平成 27 年	度	平成26年	度	増 減			
	Ŀ	<u> </u>	70		決 算 額	構成比	決 算 額	構成比	決算額	増減率
議		会		費	63,139	0.8	61,109	0.1	2,030	3.3
総		務		費	1,016,527	13.1	1,236,844	2.6	△220,317	△17.8
民		生		費	1,401,012	18.1	1,591,744	3.4	△190,732	△12.0
衛		生		費	277,763	3.6	208,472	0.4	69,291	33.2
労		働		費	50,431	0.6	51,752	0.1	△1,321	△2.6
農	林	水	全 業	費	36,087	0.5	42,246	0.1	△6,159	△14.6
商		工		費	59,617	0.8	57,175	0.1	2,442	4.3
土		木		費	384,632	5.0	360,771	0.8	23,861	6.6
消		防		費	159,101	2.0	190,195	0.4	△31,094	△16.3
教		育		費	261,121	3.4	804,548	1.7	△543,427	△67.5
災	害	復	旧	費	40,802	0.5	11,998	_	28,804	240.1
公		債		費	227,665	2.9	238,349	0.5	△10,684	△4.5
諸	支	Ī.	出	金	3,779,105	48.7	42,759,079	89.8	△38,979,974	△91.2
歳	出	1	合	計	7,757,002	100.0	47,614,282	100.0	△39,857,280	△83.7

平成27年度 一般会計の主な事業と決算額

■ 総務費

双葉町復興事業計画策定事業 1,598万4千円

・双葉町再生可能エネルギー活用・推進計画策定事業

3,996万円

· 双葉町内復興拠点基本構想策定事業 2,991万6千円

■ 民生費

• 国民健康保険特別会計繰出金 8,683万8千円

1億2,437万3千円 ·介護保険特別会計繰出金

福島県後期高齢者医療広域連合負担金 8,084万2千円

ICTきずな支援システム事業 2億1,694万1千円

・町内防犯・防災パトロール事業 1億6,613万6千円

• 復興支援員事業 7,743万3千円

• 中間貯蔵施設整備等影響緩和補助金交付事業

2,040万8千円

■衛生費

総合健康診查事業 2,013万1千円

・中間貯蔵施設に関する地権者支援事業

1億2,249万5千円

■ 労働費

緊急雇用創出基金事業 5,043万1千円

■商工費

· 双葉町商工会振興補助金 990万円

双葉町観光復興再生事業費補助金 674万円

■土木費

·公共下水道事業特別会計繰出金 3億470万1千円

・双葉インターチェンジ整備事業 982万9千円

■ 教育費

• 仮設校舎等管理運営事業 6,810万3千円

· 幼稚園就園奨励費補助金 1,894万2千円

要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業

2,091万9千円

■災害復旧費

• 公共十木施設災害復旧事業 4,080万2千円

■ 諸支出金

・東日本大震災復興基金積立金 7億4,533万円

• 中間貯蔵施設立地町地域振興交付金基金積立金

17億884万6千円

平成27年度決算における主な財政指標等

■ 地方債と基金現在高

地方債現在高

会計区分	27年度末現在高
一般会計	26億3,402万1千円
公有林整備事業特別会計	2,093万8千円
公共下水道事業特別会計	15億3,804万8千円
合 計	41億9,300万7千円

■ 主な財政指標

◎ 財政力指数 0.76 (3ヵ年平均)

◎ 経常収支比率 74.6%

*経常収支比率

人件費、扶助費、公債費などの経常的経費に、地方税、 地方交付税などの一般財源がどの程度充当されたかをみる 指標で、この比率が低いほど、財政構造に弾力があるとさ れています。

基金現在高(一般会計)

	基金の種別	27年度末現在高
	財政調整基金	35億1,095万円
立	減債基金	66万7千円
積立基金	その他の特定目的基金	511億727万円
金	小 計	546億1,888万7千円
定	土地開発基金	2億2,070万円
祖運	災害援護特別資金貸付基金	5,000万円
定額運用基金	その他の定額運用基金	1億589万円
金	小 計	3億7,659万円
	合 計	549億9,547万7千円

*財政力指数

普通交付税の基準財政収入額を基準財政需要額で除して 得た過去3ヵ年の平均値で、「1」に近くあるいは「1」を 超えるほど財源に余裕があるとされています。

特別会計歳入歳出決算の状況

■ 特別会計とは、特定の事業を行う場合に一般会計と区別して経理する会計で、双葉町には以下の会計があります。

会計名	歳 入	歳出	差引
国民健康保険	16億9,847万7千円	16億2,972万1千円	6,875万6千円
公有林整備事業	521万7千円	521万7千円	-
公共下水道事業	3億2,339万2千円	3億468万8千円	1,870万4千円
工業団地造成事業	216万5千円	203万3千円	13万2千円
介護保険	10億7,197万8千円	9億4,946万6千円	1億2,251万2千円
後期高齢者医療保険	3,466万8千円	2,550万8千円	916万円

健全化判断比率及び資金不足比率について報告

平成27年度決算に基づく財政の健全化判断比率及び資金不足比率は、次のとおりです。

1. 健全化判断比率

(単位:%)

健全化判断比率及び資金不足比率とは

区	分	実質赤字 比率	連結実質赤字 比率	実質公债 3 力年平均	責費比率 単年度	将来負担 比率
平成2	7 年度	_	_	12.6	10.83840	_
平成 2	6年度	_	_	14.8	11.37220	_
比率の	増減	_	_	▲ 2.2	▲ 0.53380	_

※表中において、実質赤字額、連結実質赤字額がなく、将来負担比率が算定されないため「一」と表示しています。 正化計画」をスタートさせ、平成21年度 (単位・%)

〔参考〕				(単位:%)
早期健全化基準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	

2. 資金不足比率

(単位:%)

区分	資金不足比率			
区 分	公共下水道事業特別会計	工業団地造成事業特別会計		
平成27年度	_	_		
平成26年度	_	_		
比率の増減	_	_		

※表中において、資金不足額がないため「一」と表示しています。

平成19年度に公布された「地方公共団 体の財政の健全化に関する法律」において、 地方公共団体の財政の健全化を示すために 定められた指標です。

双葉町では、「実質公債費比率」が高い ことから、平成18年度に「公債費負担適 には「地方公共団体の財政の健全化に関す る法律」に基づく「財政健全化計画書」を 策定し、実質公債費比率の抑制に取り組ん できました。比率の推移としては、平成19 年度決算の30.1% (3ヵ年平均)をピーク に、平成20年度以降は地方債残高の抑制 努力により比率を徐々に引き下げ、平成 22 年度決算で早期健全化基準(25%)未満の 23.7% となり、平成 25 年度決算では公債 費負担適正化計画より1年前倒しして、実 質公債費比率が 18% を下回る 17.1%とな りました。平成27年度決算では平成26年 度決算から2.2%減の12.6%となりました。

用語の説明

*実質赤字比率

普通会計 (一般会計と公有林整備事業特別会計) における実質赤字額の標準財政規模 (地方公共団体 が自由に使える財源の標準的な規模) に対する比率です。

*連結実質赤字比率

町の全会計を対象に実質赤字額(普通会計・国民健康保険特別会計、介護保険特別会計・後期高齢者 医療特別会計)・資金不足額(公共下水道事業特別会計・工業団地造成事業特別会計)の標準財政規模に 対する比率です。

*実質公債費比率

経常的な一般財源に対する普通会計の公債費や公債費に準ずる債務負担行為(請戸川水系県営水利事 業負担金等)、公営企業債(公共下水道事業特別会計)への繰出金、一部事務組合(双葉地方広域市町村 圏組合、双葉地方水道企業団)への負担金のうち公債費に充てられた一般財源の割合で、過去3ヵ年の 平均を求めたものです。

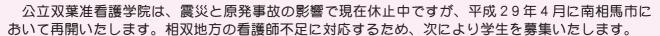
*将来負担比率

現在かかえている負債が、将来、財政を圧迫する可能性が高いかを示すストック指標で、公営企業、 出資法人等を含めた普通会計の実質的負担の標準財政規模に対する比率です。

*資金不足比率

公営企業会計(公共下水道事業特別会計・工業団地造成事業特別会計)ごとの資金の不足額の事業の 規模に対する比率です。

公立双葉准看護学院学生募集について



受験資格・入学定員	中学校卒業以上の心身健全なる者・30名		
出願書類及び受験手続	入学願書、調査書及び卒業証明書 入学検定料 10,000円		
願書受付期間	平成29年1月4日(水) から1月27日(金) 必着		
願書提出先	公立双葉准看護学院再開準備事務所		
試験日程及び受験科目	平成29年2月1日(水) ・筆記試験(国語・数学) ・面接 ・作文 試験会場:福島県立テクノアカデミー浜(予定)		
合格発表	平成29年2月10日(金) 午後11時 準備事務所		

【問い合わせ先】 公立双葉准看護学院再開準備事務所

〒975-0036 南相馬市原町区萱浜字巣掛場 45-76 放射線対策総合センター内

☎0244-32-0990 FAX 0244-32-0991







評価と信頼について



町立学校の成果と評価

双葉町立幼小中学校のこの間の入学者の増加や子どもたちの落ち着いた学校生活、学習面やスポーツ・ 芸術面での様々な活躍については何度か触れましたが「小さな成果がいくつか見られたが、子どもの数は 依然として40人という少人数であり、100人程度の学校規模になれば十分な成果として認められる」と 考えています。 この点については様々な意見があり、 **評価も分かれるのではないか**、と思っています。 ただ、 ここまでに至るまでの関係者の努力、町立学校に対する思い、子どもたちの教育に対する熱意については 十分に評価に値するであろうと考えます。町の学校教育の責任者として全力を尽くしてきたつもりですが、 自分以外の多くの人々の努力や熱意の総和としての今があると思います。

町立学校以外の子どもへの支援

いわき市の町立学校の開校以前に南台での放課後学習会を開設しましたが、以来3年が経過し、ここで も子どもたちの学習習慣形成、学力向上に成果が見られていると思います。また、**全国に避難している多 くの子どもたちへの支援策として、**幼稚園の授業料等の補助及び学用品や給食費等の就学援助(全国の約 300名)や県内での放課後学習会の参加機会の案内(双葉郡内各教育委員会が県内14カ所で開設してい る)以外に毎年夏に実施している「集まれふたばっ子」の絆作りのイベントも企画しています。今年度は 更に全国に避難している中学生対象に「海外研修旅行」も復活させました。他にも、学校生活に関する相 談が時折寄せられ、その都度対処しています。一方で「町立学校に通う子どもたちが恵まれすぎている、 他の子どもたちにも、特に学習面での支援を」という声も聞かれます。現状で考えられる支援を精一杯取 り組んでいますが、今後どのような支援ができるか検討していきたいと思います。

評価の内容

これまでの子どもたちの教育全般について、**様々な評価の声が寄せられ**ました。おおむね自分達の努力 に対して納得できる評価を頂いていますが、中には「放射線被ばくが心配なので、これ以上双葉の子ども たちを学校に戻さないで欲しい」、「双葉町以外の子どもたちが通学する学校は双葉町の学校と言えないの でないか」、「40人程度の少人数では、子どもたち同士の触れ合い、競争が生まれない、もっと増やすべき」 等の意見も聞かれました。評価は自由であり、どのような意見も許容されるはずであると受け止め、寄せ られた要望、意見については一つ一つ丁寧に答えてきたつもりです。中には「まったく評価しない」とい う厳しい意見も見られますが「果たしてそうなのか。一面的な見方に過ぎないのではないか」という疑問 を持つに至りました。

正しい評価と態度

そもそも人の評価、物事の評価というものは、**一面的、一時的なものであってはならない**はずですが、往々 にして人は誤った判断をしてしまいがちです。そして、この誤った評価のために、それまで築いてきた互 いの信頼関係がくずれてしまうことがよく見られます。人や組織がどのような努力をしてどのような成果が あったのか、ということの理解が不十分だからだと思います。そのような評価はやはり適切ではなくうわべ だけのものになってしまいます。その上で、これまでの自分たちの努力を適切に評価して欲しいと願うの です。

私達は人と人との関係の中で常に生きています。家族であれ、友人であれ仕事の同僚であれ、常に互い の良好な関係性を維持するためには、誠実な態度、話し合いを通じて理解し合おうとする基本的な態度が 必要となります。そうした態度、考え方を形成する土台として人の評価、物事の適切な評価があるのだと 思います。時に自分の意見や価値観と異なる場面がでてきたとしても、相手の行為や考えそして自分に対 して相手はどのような態度で接してきたのか、という多面的な視点で物事を考えることが大切なのではな いでしょうか。

双葉町教育長 半谷 淳







6年ぶりの開催

〜 長寿を祝 再会を喜び合って~

葉町敬老会が、いわき市にあるスパリ ソートハワイアンズにおいて開催され 10月2日、 震災後6年ぶりとなる双

会場に着き知り合いの方を見つける 避難先から65歳以上の対象者2,071 を流して話し込む姿もありました。 人のうち218人が出席されました。 当日は、県内外から送迎バスを運行し、 皆さんはたちまち笑顔になり、 涙

健康を喜び合いました。 りながら、久しぶりの再会やお互いの テーブルで顔馴染みの方々と昼食をと 敬老会の前には、昼食交流会が開か 出席した皆さんは、行政区ごとの

きました」とあいさつしました。 あってこの敬老会を開催することがで を歌いました。続いて伊澤史朗町長が んのふるさと・双葉町を思う気持ちが 一今だ全町避難が続いているが、 次に、出席者最高齢である101歳 式では、 出席した皆さんで町民の歌 皆さ

と立ち上がり曲に合わせて踊り出す場

れると、座って聞いていた皆さんは自然

(新山)

(新山)

(新山)

(三字)

(長塚一)

面もあり大変盛り上がりました。

敦則さん

陽子さん

庄榮さん

則子さん

文人さん トヨさん

利清さん

秋代さん

___ 良男さん ヨシ子さん

られました。 と会場の皆さんからは大きな拍手が送 壇上へ上がり、記念品を受け取られる

どり金メダルが贈呈されました。 男さん、ヨシ子さんご夫婦、 うち出席された2組のご夫婦、 婚夫婦表彰が行われ、 さらに、福島民報社よりしあわせ金 則子さんご夫婦に表彰状とおし 7組の表彰者の 白圡庄榮 岩川良

手拍子をしながら楽しそうに聞いてい が歌われている「双葉音頭」が披露さ など全7曲を歌い、出席した皆さんは が開かれました。「浪花節だよ人生は_ ました。歌謡ショーの最後に木村さん 歌歌手、木村友衛さんによる歌謡ショー 員から来賓祝辞が述べられました。 吉田栄光県議会議員、 正芳衆議院議員、増子輝彦参議院議員、 敬老会第2部では、双葉町出身の演 続いて、佐々木清一議会議長、吉野 橋本徹県議会議

先への帰路へつきました。 とを誓い、別れを惜しみながら各避難 また来年の敬老会で元気に再会するこ 発する直前まで話は尽きることなく 盛況のまま幕を閉じ、帰りのバスが出 たくさんの笑顔に包まれた敬老会は

川本

白圡

半澤

石橋

岩川

を贈呈しました。ちよさんが、ご家族 の方に手を借りながらもご自身の足で

の今村ちよさんに伊澤町長から記念品

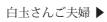
双葉町

祝平成28年度

あわせ金婚夫婦 表彰ご夫婦



岩川さんご夫婦





記念品を受け取る今村ちよさん

















ふたばワールド2016 in かつらる



催され、双葉町からはこの日が初お披クターが応援に駆け付けるステージがために、ふなっしーと双葉郡のキャラ られ、双葉町からは「避難・復旧状況の状況を発信する様々なブースが設け ゆるキャラ「しみちゃん」を応援する 約6,500人の方々が集まりました。 スルメ」「ふたば茶亭」などが出店し、 **が加した方々にとても好評でした。** このイベントでは、各自治体から復興 また、今年4月に誕生した葛尾村の ・ぐるぐるユニットによるよっちゃん パネルの展示」「双葉郡の若者グルー 避難先などから

るかのように、心地よい風が吹き抜当日は、双葉郡の復興を後押しす が開催されました。 6







定ですのでお楽しみに。 撮るなど人気を集めました。 いう声が多くかけられ、 、一人ひとりの想いが届くことを願への願いが書かれた風船が空に放た 今後も色々なイベントに登場する予 ジに上がりました。 ルドは幕を閉じました。 来場した方々の復 い動きでダンスを _ かわいい」と 双葉のダル





10月10日、いわき市にあるサラブレットカントリークラブにおいて、 第2回双葉町民ゴルフ大会が開催されました。

大会は双葉ふれあいクラブの主催で行われ、県内外から参加した約50人 が18ホールストロークプレーで競い合い、秋晴れとなった体育の日に心地 よい汗を流しました。

大会終了後の懇親会では、成績が発表され、お互いのプレー 称え合いながら楽しく交流を深めました。

結果は次の通りです。(敬称略)

優勝…石川榮次、準優勝…渋谷容寿、3位…作田伊久雄 ベストグロス賞…武内裕美、最高年齢賞…松本定雄(84歳)



双葉町避難地域住民交流会 ~ 久しぶりの再会を喜び合い ~



10月6日、震災前の地域住民のつながりをよみがえら せる機会として、今年で5回目となる日本赤十字社福島 県本部主催の双葉町地域住民交流会が福島市にある飯坂 ホテル聚楽において開催されました。県内各地域からの 送迎バスにより約80人の方々が参加し、久しぶりの再 会を喜び合い、参加した皆さんは笑顔が溢れていました。

開会式では、初めに野崎洋一日本赤十字社福島県支部 事務局長が「交流事業は今年で最後になりますが、皆さ ま、今後とも健康に留意されお過ごしください」とあい さつされました。続いて、志賀公夫生活支援課長が、交 流会開催のお礼と参加した皆さんへの感謝の言葉を述べ ました。

記念撮影後に交流会に入り、参加者の皆さんはバイキ ング形式の昼食をとったり、カラオケをしたりしながら お互いの近況を報告し合い、終始会話が弾んでいました。 また、ゆっくりと温泉に入り、長引く避難生活の疲れを 癒すのと同時に、限られた時間ではありましたが交流を 深めることで心も体もリフレッシュされた様子でした。

今回でこの交流会は最後になりますが、日本赤十字福 島県支部様には、5回に渡り交流会を開催していただき 町民の皆さんの絆を深めていただいたことに感謝申し上











第3回 市町村対抗福島県ソフトボール大会

10月16日、好天に恵まれた中、相馬市光陽ソフト ボール場において、県内55市町村のチームが参加し、 ふるさとの誇りを懸けて戦う「第3回市町村対抗福島県 ソフトボール大会」が開催されました。

試合はトーナメント方式で行われ、双葉町チームは20 代から50代の幅広い年齢層の選手で1回戦を国見町と 対戦しました。試合には惜しくも負けてしまいました が、守備では随所にファインプレーが見られ、応援席か ら歓声が上がる場面もありました。終始声をかけ合いな がら最後まで諦めないプレーを見せてくれた選手の皆さ ん、大変お疲れさまでした。



町立学校の様子



~ 小学生が稲刈り体験 ~

9月15日、町立小学校の5・6年生の児童9人がいわき市立渡辺小学 校の児童と共に、地域の方々のご指導を受けながら稲刈り体験をしました。

5月に田植えをし、稲を守るためのかかしを作るなどして、成育を楽し みにしてきました。稲刈りを迎えるまでは地域の方々が管理をしてくださ り、稲は立派に育っていました。稲の刈り方を教えていただきながら進め られ、経験があり慣れた手つきで刈っていく児童、初体験で恐る恐る刈っ ていく児童がいましたが、すぐに全員が上手に刈ることができるようにな り、ぬかるみに足を取られ助けを求める一場面もあるなど、和やかな中で 無事に稲刈りを終えることができました。

児童代表の脇坂玲名さんが地域の方々へ「今日の稲刈りを楽しみにして きました。これまで田んぼを管理してくださりありがとうございました」 とお礼の言葉が述べました。

この日刈った稲は、12月の収穫祭で今回お世話になった方々へ感謝の 気持ちを込めて餅つきをする予定です。

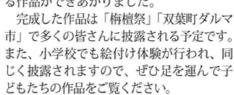


~ ダルマ提灯絵付け体験 ~

10月4日、町立学校の中学生がダルマ提灯への絵付け体験をしました。 双葉町観光協会のダルマ提灯事業の一環で行われ、須賀大輔さんのご指導 を受けながら、生徒たちは双葉町からイメージするものや思い出をダルマ 提灯へ描いていきました。

震災当時は、小学校の低学年だった生徒たちですが、ふたばダルマ、清 戸廹装飾横穴墓、桜の木、山、海など様々な絵を描いており、生徒たちに はしっかりと双葉町の情景、イメージがある様子でした。

須賀さんや先生方の助言をもらいながら作業は進んでいき、個性あふれ る作品ができあがりました。





みんなで双葉町チームを応援しよう! 第28回ふくしま駅伝大会

11月20日(日)ふくしま駅伝大会(市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)が、白河市総合運動公園から 福島県庁までの16区間、95.1キロのコースで繰り広げられます。

ふるさとの想いをのせて双葉町のタスキをつなぐ選手の皆さんを、当日、沿道や中継所で応援しませんか。 皆さんの温かい声援が大きな励みになります。応援をよろしくお願いします。

監督:白玉 直裕 コーチ:吉田 一弘 ゼッケンNo.は

ĴΠ

61





10月3日、いわき市にあるサポートセンター 「ひだまり」において、いわき南警察署復興支援 係(ウルトラ警察隊)の方々がパトロール中に撮 影した双葉町内の現在の様子をスライドショーで 紹介していただきました。

会場には約25人の町民の方が集まり、学校や 各地区の公民館、前田の大杉や商店、各所の風景 など町内の様子が次々映し出されると、集まった 皆さんは食い入るように見入り「よく行っていた 場所だ」「あそこはうまかったな」など懐かしむ 声があがりました。また、写真が写し出されると 同時に町民の歌や各学校の校歌が流れ、口ずさみ ながら見ている方もいました。

最後に、集まった皆さんから「双葉町は、空が 青く、草木もきれいでなんていい所なんだろうと 思い、帰りたくなりました」「写真を見て帰りた くなったが、それができなくて悔しい」などの感 想が述べられました。

特別養護老人ホームせんだん。入所者募集のお知らせ

ふたば福祉会で運営していた老人福祉施設が、いわき市錦町江栗馬場地内で事業を再開します。 これにより、平成29年1月から入所者の予約受付を開始します。

○利用対象者 …… 要介護 3 ~ 5 に認定された方

……要介護 1・2 の方で特例入所要件に該当する方

○募集定員 ……特別養護老人ホーム

…… 短期入所生活介護(ショートステイ) 10名

…… 認知症高齢者グループホーム 9名

(※現在満室)

40名

…… 認知症対応型通所介護(デイサービス) 3名

○手続きの日程 … 平成 29 年 1 月 申込書類にて予約受付開始

2月 入所に先立つ実態調査を開始

4月 入所判定により入所を決定

7月 入所開始

○ご利用料金 …… 介護サービス費の他に居住費および食費 ※日常生活費は実費のみご請求させていただきます。

○その他……ご希望の時期や月々の利用料金の金額などの 詳細については、法人事務所までお気軽に ご相談ください。

【問い合わせ先】 社会福祉法人ふたば福祉会 いわき事務所 **2** 0246-88-8040



常磐自動車道 いわき勿来 IC 下車 10分 ケーズデンキ勿来錦店 東側



健

康

冬に危

険 な

ご存知で コラム

すか

特に高齢者や高血 急な体温変化が起こりや ので注意が必要です。 尿

です。 入浴時は特に注意 、急に熱い湯船に入るなす。冷えた体を温めるため一番多く起こるのは入浴時

とき。 に寒い 入浴後、 風 温

に出かけるとき。 呂に入るとき。 い脱衣場から急に 脱衣所や部屋に行暖まった体で、 定に行く 熱い

きっかけにして健康被害 上下に大きく変動することを急激な気温の変化で血圧が こすことです。 種塞や意識障害など)を起 ヒートショックとは

けておくのも良いでしょう。ができます。湯船のフタを開けることで室内を暖めること

入浴前に、

お湯を浴室にか

入るのでなく、

船につかる前

に、一気に

番にお湯を

かけ徐々に れた部分から

暖

心

臓から離

た部分から順 手や足など

こんなときは注意

 $\langle \cdot \rangle$ トイレに行くとき。 かい家の中から、 房の効いた部屋から、 寒い 外 寒

冬場には十分ご注意ください。 急な体温変化が起こりやす 室内と外の温度差が大きい

お ましょう。

健 <問い合わせ先> 康福祉課 0 2 4 6 **184-5205** 健康づくり係

急

りやすいのがヒートショッ 大きくなるこの季節におこ た部屋や外との気温の差が ていきます。暖房で暖まっだんだん気温が低くなっ 体温変化を和らげましょう。のこを敷き、入浴直前直後の 器具を置いたり、マットやす

が高いので注意しまし 簡単な工夫で予防できます 衣所やトイレなどに暖房

脂質異常症 0 人は危 険

ツ ンよう。

■対象:原則18歳以上の方(高校生も可)

■開催日:毎月第2・4週の月~金 (午前9時~午後4時)

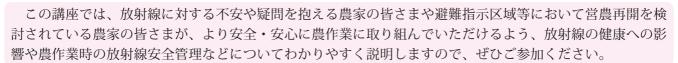
■ 問い合わせ先: 福島県立盲学校

☎ 024-534-2574

視覚障がい者の教育相談

福島市にある福島県立盲学校では疾病などによる 視機能低下(著しい視力低下や視野狭窄、視野欠損 等)で、進学や就労にお困りの方の教育相談を行っ ています。お気軽にお問い合わせください。

「農作業時における放射線対策と健康講座」開催のお知らせ



講座の内容

- ○放射線と健康
- ○屋外における放射線対策や農作業時の 注意点
- ○農作物における放射性物質吸収の仕組 みと対策について
- ○意見交換

※参加希望の方は、右記の問い合わせ先まで申し込みを お願いします。

申込締切:各会場開催日の1週間前 (以降も受け付けます)

実施会場

○11月9日(水)

福島県環境放射線センター (南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-169)

○12月2日(金)

福島県男女共生センター 女と男の未来館 (二本松市郭内1丁目196-1)

○12月7日(水)

全会場、開催時間は いわき市社会福祉センター 13:00~15:30です。 (いわき市平菱川1-3)

【申し込み・問い合わせ先】

一般財団法人 日本環境衛生センター 福島支所

024-522-3715

FAX 024-522-3725

健康生活のすすめ

インフルエンザの感染を防ぐポイント



インフルエンザは、秋から冬にかけて流行する病気で、高熱や関節の痛みなどの症状を伴い、場合に よっては重症化するおそれもあります。流行を防ぐためには、原因となるウイルスを体内に侵入させな いことや周囲にうつさないようにすることが重要です。予防のポイントを案内します。

1. インフルエンザとは?

「高齢者や幼児、持病のある人など は重症化することも」

インフルエンザウイルスに感染して起こりま す。38度以上の発熱と頭痛や関節・筋肉痛な ど全身の症状が急に現れ、高齢の方や様々な慢 性疾患を持つ方は肺炎を伴うなど重症化するこ とがあります。

重症化する危険が高い人は、高齢者、幼児、 持病のある方、慢性呼吸器疾患 (COPD)、慢

性心疾患のある 人、糖尿病など代 謝性疾患のある人 などです。



3. ほかの人にうつさないためには?

「咳エチケット」を実践しましょう

インフルエンザは、咳やくしゃみの際に口か ら発生する小さな水滴 (飛沫) によって感染し ます(飛沫感染)。普段から"咳エチケット"で 他人にうつさないようにすることも大切です。

- ・マスクをする
- こまめな手洗い
- 咳やくしゃみをするときは、ティッシュ などで鼻と口を覆ったり、他の人から顔 をそらす
- 鼻をかんだティッシュはすぐに捨てる

2. かからないためのポイントは?

「正しい手洗いやふだんの健康管理 と予防接種で防ぐ」

予防するためには次のことに気を付けましょう。

(1) こまめな手洗いやうがい

帰宅した時や調理の前後、食事前など こまめに手洗いやうがいをしましょう。 手洗いは石けんで丁寧に。

(2) ふだんの健康管理

体の免疫力が弱っていると、感染しや すくなります。ふだんから、十分な睡眠 とバランスのよい食事を心がけ、免疫力 を高めておきましょう。また、適切な 湿度(50%~60%)を保つことも効果 的です。

(3)予防接種を受ける

予防接種は、もしかかったとしても重 い症状になるのを防ぐ効果があります。 医師と相談して予防接種を受けましょう。

(4)人混みへの外出を控える

インフルエンザが 流行してきたら、人 混みや繁華街への外 出を控えましょう。



インフルエンザ予防啓発キャラクター「マメゾウくん」

インフルエンザの症状がある場合は早めに受診しましょう。

町では中学3年までのお子さんと65歳以上の高齢者の方のインフルエンザ予防接種費用の助成を 行っています。詳しくは広報ふたば10月号同封のチラシをご覧ください。

日本年金機構からのお知らせ・・

「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」が発行されます

国民年金保険料は、所得税及び住民税の申告において 全額が社会保険料控除の対象となります。

控除の対象となるのは、平成28年1月から12月ま でに納められた保険料となります。過去の年度分や追納 された保険料も含まれます。

また、ご自身の保険料だけではなく、ご家族の負担す べき国民年金保険料を支払っている場合、その保険料も 合わせて控除が受けられます。

11月上旬に日本年金機構から「社会保険料(国民年 金保険料)控除証明書」を送付しますので、年末調整や 確定申告の際に必ずこの証明書または領収書を添付して ください。(なお、平成28年10月1日から平成28年12 月31日までの間に、今年初めて国民年金保険料を納めら れた方へは、平成29年2月上旬に当該控除証明書を送 付します)

税法上とても有利な国民年金は、老後はもちろん不慮 の事故など万一のときにも心強い味方となる制度です。 保険料は納め忘れのないようキチンと納めましょう。

~ 年末調整・確定申告まで 大切に保管してください ~

【問い合わせ先】

ねんきん加入者ダイヤル

☎0570-003-004

- ●自動音声でご案内します。
- ※050から始まる電話でおかけになる場合は、 **☎**03-6630-2525へおかけください。

【受付期間及び時間】

平成28年11月1日(火)

~平成29年3月15日(水)

- ・月~金曜日(午前8時30分~午後7時)
- ・第2土曜日(午前9時~午後5時) ※祝日(第2土曜日を除く)、12月29日~ 1月3日はご利用いただけません。

相馬税務署からのお知らせ 年末調整説明会の開催について

11月に福島県内各税務署において、平成28年分年 末調整説明会の開催を予定しています。

詳しくは、源泉徴収義務者宛てに送付しております年 末調整関係書類をご確認ください。

なお、年末調整関係書類については、税務署にお届け のある住所宛てに送付していますので、まだお手元に届 いていない方につきましては、下記までご連絡をお願い いたします。

【問い合わせ先】

相馬税務署法人課税第一部門 **☎** 0244-36-3942



平成28年度 個人事業税(2期)課税のお知らせ

個人で事業を営まれている方で、個人事業税の課税対 象となる方へは、8月に納税通知書を発付しております が、2期分については、11月10日(木)に納税のお 知らせを発送する予定です。

納期限は、11月30日(水)となりますので、忘れ ずに納めましょう。

なお、税務署へ所得税の確定申告書を提出された時期 等により、納期が異なる場合があります。

※個人事業税とは、県内で、個人で事業を営まれている 方について、税務署に提出した所得税の確定申告をも とに課税される税金です。

【問い合わせ先】

相双地方振興局県税部課税課課税第一チーム

☎ 0244-26-1126

■ 全国一斉 「女性の人権ホットライン」強化週間 ■

福島地方法務局と福島県人権擁護委員連合会は、 11月14日(月)から11月20日(日)までの 7日間、全国一斉「女性の人権ホットライン」強化 月間として、夫・パートナーからの暴力やストーカー など、女性をめぐる様々な人権問題の解決を図るた め電話相談の取り組みを強化します。相談は無料で、 秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

なお、強化期間以外の日においても相談に応じて いますのでご利用ください。

○期間:11月14日(月)~11月20日(日)

○時間:午前8時30分~午後7時

ただし、11月19日(土)と20日(日)は

午前10時~午後5時

○ 電話番号: 0570-070-810 (全国共通ナビダイヤル)

【問い合わせ先】 福島地方振興局 人権擁護課

3024 - 534 - 1994



10月1日、2日、いわき市の「勿来温泉 関の湯」 において、浜野行政区の総会・交流会を開催し、 各避難先から25人の方々が参加しました。

総会に先立ち、震災で亡くなられた方々、行方 不明の方のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

今回の総会には、役場から武内裕美総括参事、 松本信英住民生活課長に出席していただき、浜野 地区の復興計画や町の再生について、丁寧な説明

をしていただきました。

総会後は交流会に移り、皆さん時を忘れたかの ように話に弾みがつき、震災から5年経った現在 の生活を報告し合うなど、遅くまで楽しい時間を 過ごしました。

翌日は、次回の総会にまた再会することを誓っ て、各自帰路につきました。

皆さま、お元気で・・・

(環境省)福島環境再生事務所からのお知らせ ~中間貯蔵施設について~

- ◇輸送について(10月20日現在)
- ▶双葉町内中間貯蔵施設保管場の試験輸送の状況は下記のとおりです。

○実施中 -

[平成28年度の輸送]

浪江町(6月20日開始)・伊達市(7月8日開始)

- ・福島市(9月5日開始)・川俣町(10月3日開始)
- 葛尾村(10月5日開始)

[学校等からの輸送]

- 二本松市(9月5日開始)・桑折町(9月6日開始)
- ・国見町(9月27日開始)・相馬市(10月1日開始)
- ・本宮市(10月6日開始)・新地町(10月12日開始)

○輸送終了 –

[平成28年度の輸送] 双葉町

(5月12日~7月7日)

「学校からの輸送] 伊達市

(7月30日~8月5日)

◇保管場及び陳場下交差点の放射線監視

- ▶空間線量率の測定により、除染土壌等の搬入による周辺への影響は見られないことが確認されています。 今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。
- ▶中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のJESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式 会社)のHPで公表しております。

(URL) http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html

【問い合わせ先】福島環境再生事務所 中間貯蔵施設等整備事務所 **☎** 0 2 4 − 5 6 3 − 1 2 9 3 調查設計課



双葉町社会福祉協議会

~ 11月健康運動教室、社協サロンのお知らせ ~

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。お気軽にご参加ください。

会 場	問合せ・申込先	開催月日	時間			
健康運動教室 (内容:健康講話、相談、運動機能の維持・向上等)						
福島市北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小原田 8-1 ☎ 080-6033-1196(小林)	11月17日(木) 11月24日(木)	13:30 ~ 15:00			
白河市郭内第二応急仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 ☎ 080-6290-5930(廣田)	11月 1日(火) 11月 8日(火) 11月15日(火) 11月22日(火)	10:00 ~ 11:30			
南東北総合卸センター2階第6会議室	郡山市喜久田町卸 1 丁目 1-1 ☎ 024-973-5291(開発)	毎週火曜、水曜日 (祝日除く)	13:30 ~ 15:00			

社協サロン (内容:健康講話、相談、趣味、生きがいづくり交流等)

※社協サロンでは昼食を準備致しますので事前に申込みをお願いします。

会津若松市城東町 14-52 会津若松老人福祉センター 11月21日(月)|10:00~14:00 ☎ 024-973-5291 (開発)

サポートセンターひだまり出張サロン

(内容:健康体操、健康講話、交流会等)

いわき市錦町上川田 21 いわき市勿来市民会館 11月24日(木) 10:30~14:30 ☎ 080-6290-5927 (渡邉)

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 🕿 024-973-5291【担当:開発】

及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難さ れている農家の皆さんの相談窓口を設置しており ます。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせてい ただきながら、皆さんが必要な情報、(農産物・土 壌モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技 術情報、資金・事業の紹介など)をわかりやすくご 説明いたしますので、お気軽にお越しください。

※町村間わずに最寄りの窓口にお越しください。 双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」 に掲載しておりますので、ご利用ください。 パソコン、携帯電話からご覧になれます (携帯電話のパケット料金にはご注意ください)

【11月の日程】 時間:午前10時~正午

11月10日(木)	双葉町役場いわき事務所 産業課 (いわき市東田町地内)		
11月11日(金)	大熊町役場いわき出張所 産業建設課 (いわき市好間工業団地内)		
11月17日(木)	富田町仮設住宅 (郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所)		
11月18日(金)	葛尾村役場 地域振興課		
11月24日(木)	浪江町役場 産業振興課		

【問い合わせ先】

相双農林事務所双葉農業普及所 川内普及所(川内村役場内)

☎:0240-23-6474 FAX:0240-27-4747

7 / FAX: 0240-38-3434

のひき・きごろ双葉会◆薄磯団地自治会との交流会開催

年間行事の12月例会を薄磯団地自治会との交流を兼ねて下記により開催します。 お誘い合わせの上、ご出席をお願いいたします。

〇日 時:12月10日(土)

10:00~15:00 (昼食あり)

○場 所:好間公民館(好間支所に併設)

いわき市好間町中好間字中川原29-1

25 0 2 4 6 - 3 6 - 2 0 5 0

主な内容(予定)

- ・愉快に笑って活き活き人生 (快フィットネス研究所)
- ・大ビンゴゲーム(全員へ豪華景品多数)
- ・ミニコンサート(コール・フロイデ)

笑いと癒しで師走を乗り切り、新しい年への活力を・・・

【いわきの復興を担うコミュニティ重点支援事業活用】

宝くじの社会福祉貢献広報事業のお知らせ

双葉町埼玉自治会(藤田博司会長) では、宝くじの助成金(コミュニ ティ助成事業)を活用して、テン トやステージセットなどの備品を 整備しました。

今後、各種イベントで活用される 予定です。





消防署からのお知らせ

応急仮設住宅で火災が発生しました

10月6日、いわき市において応急仮設住宅4棟が燃える火災が発生しました。 空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節となっています。火災を起こさないために、 皆さん一人ひとりが注意しましょう。

安全な避難のために!

仮設住宅内は、狭くて燃えるものがたく さんあり、一度火災になると一気に燃え広 がり、有毒な煙を吸う危険があります。

そのため初期消火は、可能な範囲で実施 し、安全な避難を優先してください。

火災発生時のポイント!

- ・可能な範囲で消火(無理をしない)
- ・屋外へ避難
- ・隣近所に火事を知らせる
- •119番通報



火事と救急は 119番

<消防署連絡先>

- ・浪江消防署 ☎0240-34-7360
- ・富岡消防署 ☎0240-25-2119





教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

11月 生活学級の日程

※婦人学級の予定は、同封のチラシで お知らせしています。

日	月	火	水	木	金	土
生活学級 今月の生活学級は、 詳しい内容について しますので、参加希望 します。	・ 現地 は、	研修: タブ	会を実施します。 レットでお知らせ	3文化の日	4 ◆そうま・みなみそうま、 しらかわ生活学級 ③現地研修 福島県文化財センター 白河館 11:00~	5 ・ふるさとの祭り2016 山田のじゃんがら念仏 踊り出演 14:40頃~ 白河駅前 ・双葉町民トレッキング 天栄村羽鳥湖高原・ レジーナの森
6 ・ふるさとの祭り2016 前沢女宝財踊り出演 10:30 頃〜 渋川神楽出演 11:30 頃〜 白河駅前	7	8	9 ◆いわき北、南 生活学級 ③現地研修 福島県文化財センター 白河館 11:00~	10	11 ◆ふくしま生活学級 ③現地研修 福島県立博物館 10:00~	12 ・勿来地区総合芸能祭 標葉せんだん太鼓出演 13:00 頃~ JA スマイル大正琴出演 13:20 頃~ コーラスふたば出演 13:30 頃~ 勿来市民会館
13	14	15	16	17	18	19 ・第28回ふくしま駅伝 開会式 14:30~ 白河市中央体育館アリーナ
20 ・第28回ふくしま駅伝 7:40 スタート 白河市総合運動公園	21	22	23 勤労感謝の日	24	25	26
27	28	29	30 ◆つくば、かぞ 生活学級 ③現地研修 筑波大学 10:00~	_	お問い合わせ先】 双葉町教育委員会 教育 な (育総務課 生涯学習係)246-84-5210

中間貯蔵施設に係る 弁護士相談窓口のご案内(11月)

◇ 開催場所及び開催日時

実施場所	開催日	開催時間
双葉町 いわき事務所	11月18日(金)	午後2時~ 午後5時
双葉町 郡山支所	11月25日(金)	午後2時~ 午後5時

◇申込方法

事前申し込みになりますので下記の連絡先まで ご連絡をお願いいたします。

【申し込み・問い合わせ先】

建設課 復旧復興係 ☎0246-84-5209

受付時間

午前8時30分~午後5時15分(平日)

双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた お便りの一部をご紹介いたします

敬 敬 友 百 老 衛 老 老 歳 老 敬 会 会 ゃ \exists 背 生 1 避 に 年 き 難 筋 ケ る 招 先 伸 岸 1) 大 ば 壁 待 美 V) E 0 さ 7 女 母 れ ノベ 昭 隙 間 1 口 和 ス 謝 あ 遊 か の A 台 6 な ピ た 句

誰

鎌

益實

((三字)

名 大 日 生 \mathcal{O} 記 月 字 買 や ス 15 う 寝 空 秋 手 は 転 \bigcirc び抜 動 雲 見 浮 き 上 ば ず か 揚 V) 秋 高

0

空

花の 時 火 雨 秋

秋

の

俳

温力 茶 彼 笹 那 岸 臼 舟 須 花 を 夜心 浴が 0 深ゃの VĬ 役 後 口 を 先 目 月 送 果 影 で 秋 V) た 漕 隠 間 7 す 海 (, 近 0 不 秋 7 味 池 内 連 0 秋 0 彩る 鯉 を 旬 風 恒 待 0 涼 雄 0 膳 (長塚二)

本

番

近

お彼岸に故郷のお墓参りに行きました

揺るぎか

誰も住む人のいない細谷地区…細谷路の両側には、避難前に周辺住民が丹精込めて 植えた「彼岸花」が咲き誇っていました。

誰もいなくても、季節が巡り来ると、緋色鮮やかな彼岸花は正直に咲いて迎えてく れました。

きれいに咲いている彼岸花を眺めながら、かつての細谷での住み慣れた生活をしみ じみ思い出しながら、感慨深い思いにしばし浸りました。

来年も咲き誇っている彼岸花を眺められるよう、今後とも健康でありたいと念じま した。 平成28年9月 吉日 大橋 庸一(細谷)





避 難 者 ズ 0 涙 フ 乾 才 H 7 7 明 日秋 路 頃 風 グ グ のに 0 かに 日を 望 Q 聞 聞 15 きな 室 あ 思 き の惚 1) 仁 日れ 出が を はて す 懸 (浜 甦 H 野

人のうごき9月分 助称略

お悔み申し上げます

氏 名	年 齢	死亡日	行政区
成田 和子	79	9月 6日	Ш⊞
若松 フユ	103	9月10日	三 字
加賀イチヨ	88	9月12日	長塚二
大友 ヒデ	89	9月19日	新 山
佐々木徳治	87	9月24日	新 山

双葉町民の避難状況 (平成28年10月1日現在)

- ・福島県内に避難されている方 4.072人
- ・福島県外に避難されている方 2.881人
- ※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から 死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示し ています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、 死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご 連絡ください。

秘書広報課 🕾 0246-84-5202

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、 そして福島第一原子力発電所の事故により、私 たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もな お全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さ んが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと 双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さ んの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」と して連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さん の双葉町への思いと心の絆がより一層深まるこ とを期待いたします。





記録として次の世代へ







「ふるさと絆通信」であなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。 避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコー ナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

ー想いを伝えるー

ふるさと絆通信は、株式会社鹿島印刷所(南相馬市)の記者が町民の 皆さんの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。 掲載する文章は、インタビューの内容をもとに記者が作成しますので、 インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はありません。



【問い合わせ先】秘書広報課 ☎ 0246-84-5202





学を機に高齢である祖父母との同居を希望 小名浜で生活をしていました。 内での勤務が長かったため、一家は同市の 私たちと同じように教員でした。いわき市 後に双葉町民となりました。 双葉町民になった理由 通学していたのです。 し、双葉高校に入学して祖父母のもとから

最後の「トイレ掃除」に大感謝

認と避難所としての役割を果たすことに専 念しました。 きました。しかし、妻の安否を確認できな ではありましたが、自宅に向かうことがで たりました。私は震災翌朝、 童や町民の安全確保、 長として勤務していたため、発災後は、児 いまま、再び勤務先に戻り、 頭として、妻は南相馬市立福浦小学校に校 震災当時、 私は浪江町立苅野小学校に教 避難所設営などにあ わずかな時間 児童の安否確

除と施錠を行っていると、私と共にトイレ を勧めました。その後、校舎や体育館の掃 本校への避難者に対し圏外へ避難すること 居住者に対し避難命令が発令されたため、 その日の夕方、二十キロメートル圏内の

しょうが、いわき市生まれです。私は結婚 ん。「妻が双葉町出身」と思う方が多いで 夫婦ともに双葉町の出身ではありませ

掃除を手伝って下さる方々がいました。そ

義父(妻の父親)は双葉町の生まれで、 のときは、ありがたさに心温まる思いがし て、思わず心の中で手を合わせました。優 い思いやりに感謝の気持ちで一杯でした。

避難後は児童の姿に涙することも

電話で児童の安否確認を続けました。 ソリン不足で思うように移動できない 仙台市内の次男宅に身を寄せました。ガ 妻と再会後、 川俣町の避難所を経て、

妻が高校進

ありました。 の姿を見ると、 た、不自由な環境でも頑張っている児童 災前とは全く違った仕事内容でした。 る学校を訪問しサポートを行うなど、被 混乱が続く中、児童がお世話になってい 涙がこみ上げることも多々 ま

定年退職とこれからの生活

来ならば故郷で庭いじりをしながらのいわき市小名浜で生活しています。本 を最後に、それぞれ定年で退職し、現在、 その前の年、妻は南相馬市立八沢小学校 を送りたいと考え、 帰還が難しい中、 日々を送りたいところですが、長期的に ・や着付け教室などに通う日々を送って 図書館に、 一昨年、 私は双葉町立双葉南小学校を、 妻はフラワーアレンジメン 少しでも充実した老後 私は好きな読書のた

きょういち

おかだ



-^{えつこ} **兇子** 神奈川県伊勢原市

ばらく混乱した状態でしたが、午後3時過

ではないかという恐怖に襲われました。し

ぎには原発構内を出ることができました。

停電に見舞われたため、

閉じ込められるの

遭いました。耐震構造とはいえ、コンクリー

福島第一原発5号機の建屋内で大地震に

トの塊のような建物が音を立ててきしむ中、

閉じ込められるのではという恐怖

直面させられた厳しい現実

さかと思いその方向に向かってみると、がれき による浸水が残る中、がれきをかき分け歩いて が心配になりましたが、どうすることもできず、 自宅が集落ごと姿を消し、がれきの海になって ところ、自宅は集落ごと津波で流されたと言わ 同級生の姿がありました。長年、消防団員と に挟まれ傷だらけになりながら助けを求める いくと人の気配のようなものを感じました。 ま 涙が溢れぼう然とするだけでした。 まだ津波 いる様子でした。自宅にいたはずの両親の安否 かったところ、道中、橋の上から見た風景は、 があったため、にわかに信じられませんでした。 れました。大きな津波は来ないという固定観念 してきた私は、早速、救出活動にあたりました。 第一原発を出てヘルスケアーふたばに向かった 午後4時過ぎ、徒歩で自宅のある方向に向

追い打ちとなった避難

救出活動を行う中、夕方を迎え、本格的

朝、原発事故による避難指示が出され、 私たち夫婦は三男と共に生活しています。 える場所をとの思いで住宅を確保し、 たが、故郷に戻れない中、せめて家族が集 を経て神奈川県内の公営住宅に入居しまし ました。県内の親類宅、 るで追い打ちをかけられるように町を離れ な捜索は翌日からとなりましたが、 東京都内の長男宅

生活再建とこれから

うになってから、仕事からの帰宅後に一息つ 今では、三男と並ぶ私の片腕となっています。 されましたが、福島県内への転居は難しい状 宅の修繕やリフォームの仕事を行っています。 と共に、神奈川県西部を中心とした公営住 職業(建築)を知ったことが縁で、妻や三男 好きだったこともあり、少しずつ仕事を覚え、 度だった妻ですが、元来、手先を使う仕事が た中、最初は私の仕事が忙しい時の手伝い程 況で応じることはできませんでした。そうし ました。避難後、その勤務先から復職を要請 震災まで、妻は大熊町内の会社に勤務してい 入居した公営住宅の保守管理会社が私の 双葉町から遠く離れた場所で生活するよ

が、またいつか、故郷の近くで被災前と同じ ような環境で生活してみたいと思っています。 しばらくの間、こちらでの生活となります みじみ感じることがあります。

いたときなど、故郷が恋しく、その良さをし





引っかかりその場に止まりました。水が引いた川から るうちに、川の流れが変わり、車も海に戻され始めま 中から手を振る姿がありました。病院の職員がロー のが流されてきました。その中に、「助けて」と車の や瓦礫などによるケガなどの対応に、まるで映画を見 無事救出することが出来ました。間もなく、病院には から悲鳴やらため息が聞かれました。そうこうしてい プを持って行きましたが、タイミングが合わず、周り ているようでした。 負傷者が次々に搬送されてきました。 津波で溺れた人 した。皆が見ている状況の中で・・・車は途中で木に 程なくして、病院前の富岡川が逆流し、色々なも

避難そして3B体操との出会い

移動しました。約3年間、 山市内へ移動しました。それから約一週間は、 への搬送に追われました。その後、 い中での患者様のケアや、県内はじめ山形や群馬など 震災翌日、避難指示にて、患者様を搬送しながら郡 4回の引っ越しをしながら、 知人を頼って相馬へ 物資が無

事でした。地震に続いて大津波警報が発表されました。 の踏み場も無いほどでしたが、幸い、患者様は全員無 ションに向かってみると、器具や薬品などが散乱し足 初めて経験した津波対応 10mの津波がくるという情報で、患者様を3階に避難 でベッドと共に床を滑り動かされました。ナースステー いました。大地震に襲われた時はICUにいて、揺れ 私は看護師として、今村病院(富岡町)に勤務して

多くの方に支えられている活動

踏み入れ、平成26年4月に指導者の認定を受けました。 で演技したことがきっかけで、指導者養成コースに足を 運動不足も感じていたことから、その教室に通うように いる姿を見て興味を持ちました。それが3B体操でした。

なりました。指導する先生の姿が若々しく、また敬老会

息子は同法人が運営する老人保健施設に勤務しました。 私は医療法人茶畑会相馬中央病院に、一緒に避難した

某日、入院してきた患者様のベッドサイドにベルが置

いてあり、寝たきりながらも娘さんと一緒に、運動して

ります。多くの方々に支えて頂きながら、今に至ってい ていたからこそ、乗り切れたとも言えます。また、以前 ます。 これが私の 3B体操の活動の原点になっています。 会所で、平成27年7月から活動を始め、約1年半にな やってみたいという事になりました。南台仮設住宅の集 からの友人とも会う機会が増え、会話の中で3B体操を ても仕事に就くことが出来ています。この5年間、 、転居しました。 看護師の資格がある事で、 こちらに来 平成26年春、双葉町の近くにという思いから、広野町

地域の繋がりと3B体操の普及

軽に楽しめる健康体操です。今後とも、その普及に努 めながら、地域に貢献していきたいと思っています。 けられ、幅広い世代、それぞれの身体状況に応じて手 3B体操とは、3つの道具の頭文字をとって3Bと名付 を通して、地元の人と交流を図ることが出来ています。 合いもいない所に、引っ越して来たのですが、3B体操 現在は、いわき市大久町に住んでいます。誰一人知り

バレーボールとの出会いは中学時代

私は原町市(現在・南相馬市原町区)の



にしまき みちこ 西牧 美智子 さん

羽鳥)

くの間、

町クラブ)に所属しました。結婚後もしばら そして社会人になってからも、地元チーム(原 を始めたことがきっかけとなり、高校在学中、 出身で、中学生のとき、部活でバレーボール

原町に住んでいたので、同地のママ

福島県いわき市

バレーボールが生活の一部のような存在に めに休んだ時期もありましたが、今では、 した。子どもが体調を崩してその看護のた さんチームに入っていた時期もありました。 なっています。 双葉町に転居後もバレーボールを続けま

「北高南低」へのチャレンジ

戦を強いられることは少なくありませんで なりの実力はありましたが、地区大会で苦 や県大会でも上位入賞できるようになり、 した。しかし、メンバー同士で切磋琢磨を 高南低」の状態でした。当町チームもそれ では、相馬方面のチームが強いという「北 在となりました。 双葉町チームは、 私たちが双葉に移り住んだ頃、 双葉郡大会で優勝し、 県内でも名の知られた存 相双地区大会 相双地域

「上手い人の集まり」という印象が…

活発になりましたが、時間の経過による将 大会勝利の常連となり、チームの活動も

> ŧ が強くなってしまったためか、声をかけて を続けることができました。 ありました。しかし皆さんの協力で、 ましたが「上手い人の集まり」という印象 を図るべく、新メンバーの勧誘を行ってい 来的なメンバーの高齢化に向けて世代交代 参加者が少なくなってしまったことも

震災とチームの活動

民スポーツ大会にも出場しました。 務めさせていただき、今年は双葉郡大会や県 を行うようになりました。現在、私が主将を 再開の機運が高まり、いわきで集まりや練習 ルのメンバー同士で連絡を取り合う中、活動 家は、 ボールどころではありませんでした。私たち 生活再建だけでやっとという状態にバレー 民が各地に分散してしまった中、被災当初、 トで生活を始めました。避難後もバレーボー 経て、平成23年4月からいわき市内のアパー 原発事故による避難でメンバーをはじめ町 川俣町の避難所や仙台市内の親類宅を

結婚30周年を迎えて

とは恵まれていることと思います。 年で30周年を迎えました。人生も一区切り ながらも落ち着いた日々を送られているこ 舞われましたが、子育てを終え、避難生活 かと思う時期を目前に震災、原発事故に見 双葉町で生活して二十数年、結婚から今

teラ 佐藤 実香

字[旧姓•横山])





高校卒業後は就職希望で、3年生に進級後、

「笑顔」を表現できず苦悩

高い競争率になるかもしれないと覚悟して

の約4年後、未曽有の大震災と原発事故に遭 初舞台を踏むことができました。しかし、そ たが、周囲の皆さんに支えられて、同年7月、 楽なことではありませんでした。中でも、笑 うとは夢にも思いませんでした。 顔をうまく表現できず、大変な思いをしまし フラダンスの経験がないこともあり、決して ガールを目指してレッスンが始まりました。 運営する常磐興産株式会社に入社し、フラ 平成19年春、高校卒業後、ハワイアンズを

危機的状況と全国キャラバン

震災当日と震災の1カ月後に発生した大規

成23年4月末からレッスンを再開しました。 故の風評被害も深刻な状況になりました。し 模余震により施設が大きく被災し、原発事 気持ちを一つに復旧復興を始め、私たちも平 を乗り切った「一山一家」の精神で、全社員が かし、会社がかつて経験した炭鉱閉山の危機

県立双葉翔陽高校に在学中、学校の遠足で

避難所の慰問では、不自由な生活状況に同じ 逆に私たちが大いに励まされました。特に、 国きずなキャラバン」を始めました。訪問先 故郷を追われ避難生活を強いられている皆さ ンスを披露させていただきました。 きましたが、涙をこらえ、精一杯の笑顔でダ 故郷を持つ一人として、悲しみがこみ上げて はどこも多くの皆さんにお集まりいただき、 んに笑顔と元気を届けようと「フラガール全 同年5月、復興を願い、全国の皆さんや、

営業再開とフラガールからの引退

めました。 テージを経て震災前と同じ会場で公演を始 全面営業を再開しました。私たちも仮設ス 震災の約11カ月後までにハワイアンズは

結婚し、現在、 ようなことができればと思っています。 を生かして、故郷復興に少しでもつながる 立場からは離れましたが、これまでの経験 サージの仕事をしています。フラガールの する傍ら、 平成25年秋、 いわき市内でハワイアンマッ フラガールを引退した後に ハワイアンズで接客を担当

さくのき



涼太くん

翔太くん

堀米 翔太くん(下条) いわき市立錦小学校5年

ぼくたちは今、野球を習っています。翔太の守備は、ショー トとキャッチャーで、涼太の守備はファーストとピッチャーで す。ぼくたちは、双子バッテリーの試合の時が一番楽しいです。 もっと努力して最強のバッテリーになりたいです。

ぼくたちの将来の夢は、もちろんプロ野球選手になることで すが、もう一つ、いつか兄弟3人同じチームで野球を、試合を することです。お兄ちゃんとは3才歳が離れているので、ぼく たちが中学生になっても、高校生になっても兄弟3人、同じチー ムで野球をすることは無理です。でも、そんな2つの夢が叶え られるように、野球を頑張り続けたいと思います。

お願いしますが、避 お近くの会場にお越しいただきますよう 歩ずつ冬に近づい 、のが感じ

ふたぱーくで行われたママサロンに参加 していた池田優衣ちゃん(1歳・三字)の 笑顔です。

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4

2 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212 0246-84-5213

✓ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024

福島県郡山市朝日一丁目20番2号

3 024-973-8090

FAX 024-933-5120

✓ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105

埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階

3 0480-53-7780

FAX 0480-53-7266

⊠ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/

携帯サイト http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/

○双葉町公式ブログ 「ブログ ふたばのわ」

http://futabanowa.wordpress.com/

